



認知症サポート  
**SOMPO**  
笑顔倶楽部

Supported by



# 未来へのそなえ

## 認知症共生社会実現に向けて

超高齢化社会の抱える問題のなかでも、差し迫って重要性が高い認知症や介護に関して正しい理解に向けたコンテンツをみなさまに定期的に発信していきます。

### 第12弾 数字で知る日本社会 の介護状況



高齡化社会の進行に伴い、介護に関するニュースや話題を耳にする機会が増えました。一方、介護についての理解はまだまだ広まっていない状況です。本記事では、日本社会における介護の実情について、データをもとに解説します。

### 日本の高齡化率はまもなく30%へ

令和6年4月1日現在、日本の総人口は、約1億2400万人。そのうち65歳以上人口は約3623万人であり、

高齡化率（総人口に占める65歳以上の人口の割合）は29.2%になっています。



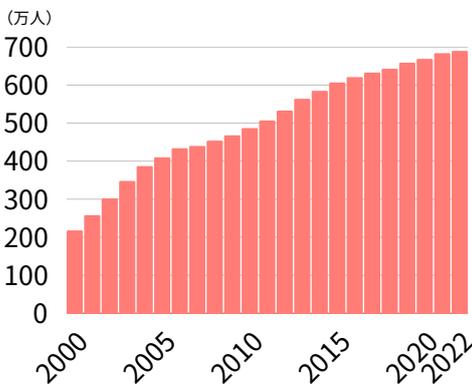
日本の高齡化率

# 29.2%

※令和6年高齡社会白書

そんな状況のなか、要介護（要支援）認定を受ける人は年々増加傾向にあり、令和6年7月現在で約717万人に。65歳以上の人口割合と照らし合わせると、5人に1人が認定を受けており、介護を必要としている状態になります。

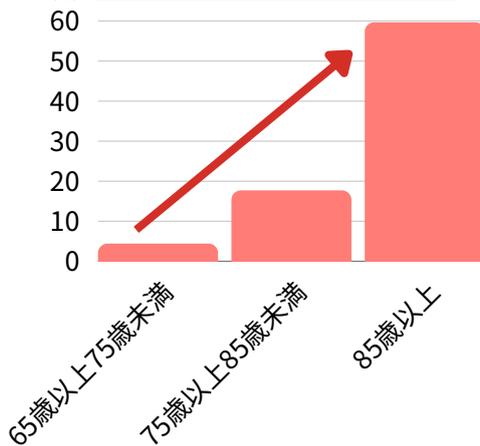
### 要介護(要支援)認定者数の推移



※厚生労働省 令和5年版厚生労働白書

加えて、認定者の数は年齢が上がるほど増加し、65歳以上74歳未満は4.4%、75歳以上85歳未満は17.7%、85歳以上になると59.7%と急激に上昇します。

### 年齢別 要介護認定率の推移



※厚生労働省 介護保険事業状況報告（暫定）令和6年7月分

### 長期間の家族介護によって負担増加へ

要支援・要介護状態になる背景には、さまざまな原因があります。要支援では、1位…関節疾患、2位…高齡による衰弱、3位…骨折・転倒となっており、要介護は、1位…認知症、2位…脳血管疾患（脳卒中）、3位…骨折・転倒という結果になっています。

# 未来へのそなえ



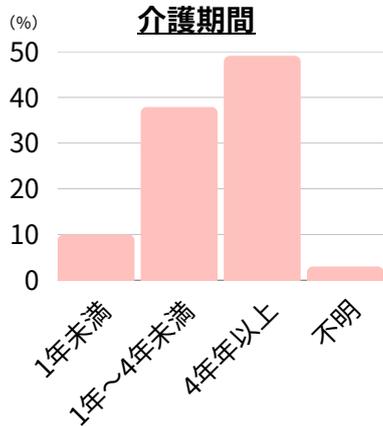
認知症サポート  
**SOMPO**  
笑顔倶楽部

Supported by



## 認知症共生社会実現に向けて

そして、介護を受けている人の続柄を見ると約57.6%は家族が占めています。



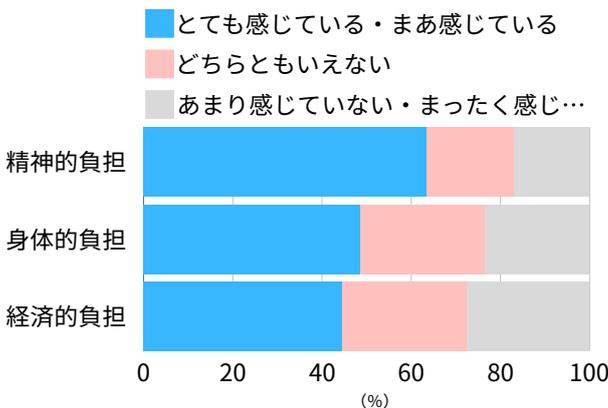
※生命保険文化センター「生命保険に関する全国実態調査」/2021（令和3）年度

次に、介護期間を見てみると、4年以上10年未満が約31.5%、10年以上が17.6%となっており、約半数の人が4年以上にわたって介護が続いています。

要支援者	
1位 間接疾患	19.3%
2位 高齢による衰弱	17.4%
3位 骨折・転倒	16.1%
要介護者	
1位 認知症	23.6%
2位 脳血管疾患	19.0%
3位 骨折・転倒	13.0%

※厚生労働省「国民生活基礎調査」(令和4年)

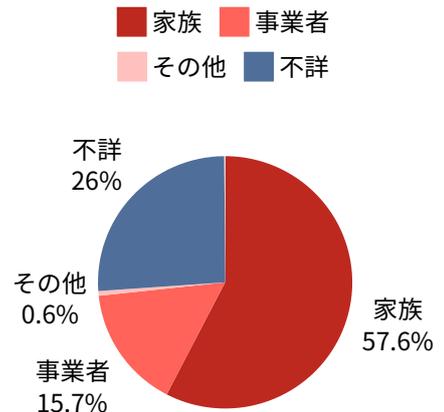
### 家族介護者の負担



※厚生労働省（2018）「家族介護者支援マニュアル」p.2

家族介護者が感じる負担を調査したデータでは、「精神的負担を「とても感じている・まあ感じている」という方が63.7%、身体的負担・経済的負担についても、約45～50%弱の人が「とても感じている・まあ感じている」と答えています。

### 介護者の続柄



※令和4年国民生活基礎調査 ※四捨五入の関係で合計は100%ではありません

## 介護状況を知ることが 両立のきっかけに

このような状況のなかで、家族の介護や看護を理由とした離職者は増加傾向にあります。社会の介護状況を知ることが、介護をしている方にとって、自身の状況を客観的に理解することにつながります。介護に関わっていない方でも、事前に情報を知っておくことで、将来の備えや行動のヒントにつながるでしょう。

### 介護に関する無料相談窓口

<https://www.wellbio.jp/>



介護のお悩みから施設紹介まで幅広くサポートします。

今回の記事は、 認知症サポート SOMPO 笑顔倶楽部 に掲載されている以下のURLより引用・転載しております。

「仕事と介護の両立」の手引きvol.1～数字で知る介護のこと～

<https://www.sompo-egaoclub.com/articles/topic/1702>